

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスぶらう				公表日	2026年 2月27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		面談室でのSSTの実施、第2活動室の新設により、静かに過ごしたい子や体調が悪くない子と、通常活動ができる場を分けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		物や掲示物を必要最低限にしたりして、わかりやすくしている。	現在は必要とする利用者がいないため、今後の利用希者によってはバリアフリー化が必要だと考える。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		活動に合わせた部屋の活用をしている。掃除等も子ども達と一緒に毎日行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		子どもの状態や全体の状況に合わせて、子ども本人の要望や提案があった場合には、状況判断をして別室の使用可能としている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3	2	関係する職員で行っているが、まだまだうまく機能していない面がある。特に年間を通しての業務サイクルや行事の振り返りを充実させ、職員全員が関わられるようにしたい。	また不十分な部分があるので、さらに取り組んでいく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		評価表を基に、職員での検討会を実施し、改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		支援についての意見集約や共有はできている。	スタッフの業務そのものに関する全体会議は少ないため、その機会を増やしていく必要がある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	実施していないため、今後改善が必要。	今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		職員全員が研修を受けられるように、時間や日程、方法等を工夫している。外部研修だけでなく、外部講師を招いた法人内の研修会も実施している。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		管理者主導で基本プログラムを作成し、その後職員全員が検討し実施している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメント会議で詳細にわたって分析検討を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		毎月、会議を開催し検討している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		毎月、会議を開催し検討している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		標準化されたツールは使用していないが、事業所内でカスタマイズされたツールの使用をしている。	こどもの適応行動の状況の確認は日々行っている。今後は現在のツールを改善し、適応行動の状況をつかみやすくしていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		毎月のアセスメント会議時に、併せて検討実施をしている。	実際に行っている支援を、放課後等デイサービスの計画にも反映させていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		個別支援計画に基づいて、適切な活動プログラムを相談しながら立案している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		新しいプログラムは、管理者が中心となって職員で共有し、取り入れるようにしている。	平日も使用できるプログラムを検討推進中。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎朝実施をしており、今後も継続していく。	参加できなかった職員に対して、迅速な漏れのない情報共有を行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		送迎の関係で、全員とは限らないが振り返りは実施している。その日不在の職員には、翌日に共有している。	参加できなかった職員に対して、迅速な漏れのない情報共有を行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々記録を残している。特記事項については、別途記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		保護者や本人の他、関わっている職員からもモニタリングを実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		「4つの基本活動」は意識して行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		本人の意思確認をしながら支援を行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児発管だけでなく、メインで関わっている職員も参画したりしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要な関連機関と速やかに連携する体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		送迎時やそれ以外でも、情報共有や連絡は都度行っていて、結構頻繁に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		保護者からも情報提供があり共有されている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		直接事業所への情報提供は難しくても、相談支援事業所を通じて情報提供をしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1		今後は連携を図っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		放課後児童クラブや児童館との交流はまだだが、地域の他の子ども達との活動機会はある。今後、クラブ等との交流を目指したい。	長期休みの活動に取り入れる。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		よめごと会議、サボネット青葉のつどい等に参加している。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		コドモンを活用して、お知らせを配信している。		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		子どもからの聞き取りも、大事にしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談の他、電話やメール、連絡帳や送迎の際などにも行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		手煮会は、家族を含めて参加してもらっている。保護者会は年2回（7、11月）、保護者懇談会の実施もしており、今後は父親の会やきょうだいの会を開催したい。	兄弟姉妹同士の交流は検討中。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		特に初期対応について迅速かつ丁寧に行い、適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		ぶらう通信を月1回発行している。法人の通信も検討中。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の扱いについて承諾書をいただいて対応するとともに、扱いにも気をつけている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		一人ひとりの子どもが理解しやすいよう、言葉の選び方を工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		夏祭り会を実施している。	毎年開催できるよう計画している。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		内容をさらに充実していきたいと考えている。	保護者への周知は徹底していく予定。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		定期的な訓練を実施しており、今後とも継続していく。	BCPは内容をより充実させたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		入所時「家庭の様子」に記入してもらう他、日々の様子は連絡帳やメールなどで確認をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		エビベンの使い方についても、職員間で共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			安全管理の職員の研修等を行っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			災害時の避難場所等について、家族への周知を行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		毎月虐待防止・身体拘束適正化委員会を開くとともに研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5				